

李 会革 教授：口頭供述のまとめ：2018年12月9日

[温阻血時間の延長]

生存中の身体からの強制臓器摘出の2つ目の方法、つまり薬物注射後の死刑囚から臓器摘出では、麻酔導入し医師が直ちに移植を実施すると考えられます。この場合、温阻血時間が短いことは理解できます。3つ目の方法、つまり、臓器摘出による死刑執行では、言うまでもなく温阻血時間は短くなります。臓器摘出による殺害ですので、非倫理的です。また、2つ目の臓器摘出の方法は、国際基準を満たしていませんが、中国では合法です。

[医師の義務]

私とその前後の世代がどのように中国で教育を受けたかをご理解いただく必要があります。私は文化大革命のあと1960年代に生まれました。「友」と「敵」を区別し、友人は暖かく扱い、敵は容赦なく過酷に扱うべきであると教えられました。文化大革命では、人々は互いに戦い、多くは機関銃を持って戦いました。広西省だけでも8万人が虐殺されました。半数は中共の制度による殺害でした。このような状況下で殺人は日常茶飯事となり、誰も罰せられません。さらに、人肉を食べた記録も残されています。

2016年、米国の教授が、文化大革命の調査を発表しました。当時人々は「敵」を食べました。特に、最もよく食べられた臓器は心臓、肝臓、陰茎でした。これらの臓器を食べれば、健康が改善され、その臓器の機能が改善するという原始的な理解があるからです。このような組織の中では、良心の囚人は制度に守られていません。ご存知のように法輪功も同じです。まとめますと、敵であれば、殺害して臓器を摘出しても構わないのです。

[法輪功、ウイグル、他のグループが「国家の敵」になりうるのか？]

国家による「ヘイト・プロパガンダ」によりこれが可能となります。2004年の若者を対象としたオンライン調査によると、80%が「有事の際、敵の女性と子供を殺害する」と回答しています。

[薬物注射による毒殺について]

機密扱いされているので難しい問題ですが、米国で使われているものと同じであると示唆されています。これらは心拍停止する薬剤です。

[文化大革命の結果、人民は二つの集団に分かれたか？]

はい。中国共産党の歴史を見れば、土地を奪うために地主が抹殺され、反革命分子の知識階級が抹殺され、それぞれの立場ごとに抹殺されました。しかし、法輪功は戦闘的ではありませんが抵抗勢力とみなされ、捉えられているのです。

[法輪功に対する国家の意図]

中国共産党は（迫害する）サブグループを作り出しますが、同時には戦いません。中国共産党は歴史的に自己の権力のみを大切にし、法輪功のように、この権威の脅威となりうるものなら、いかなるグループでも潰していきます。